

いたしん ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第32号 2019/3

特集 昆陽池公園の‘今’



特集

こやいけ 昆陽池公園

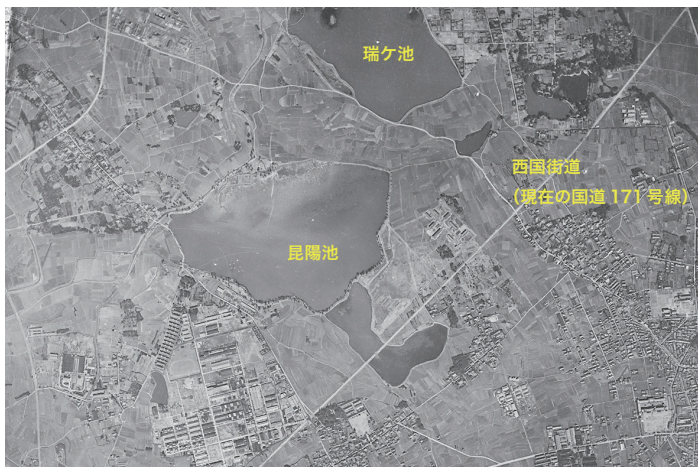
市街地の中にある生きもののオアシス、
が経過した今、さまざまな生きものが生

昆陽池公園はいつできたの？

昆陽池公園のなりたち

昆陽池は、奈良時代（西暦 710-794 年）に農業用のため池としてつくられました。戦後すぐに撮影された空中写真では当時伊丹市域の大半は田畑などの農地であったことが確認できます。また、昆陽池周辺には現在のようなまとまった林はなく、池の周囲にクロマツが点々と植えられているのみだったことがわかります（図 1）。

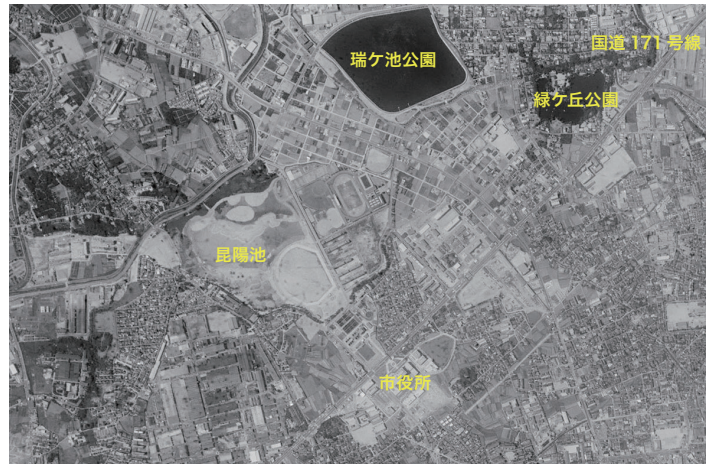
高度経済成長期、伊丹市域の都市化にともない、昆陽池はその半分以上を埋め立てられました。昆陽池が公園として造成され現在の姿になったのは、今から 46 年前の 1973（昭和 48）年のことでした（図 3）。昆陽池公園の現在の林は、この造成時に植栽された苗木が大きく生長したものです。



【図 1】1948（昭和 23）年 3 月に撮影された伊丹市域。多くは農地だったことがわかる。昆陽池は現在の 2 倍以上の大きさだった（出典：国土交通省 Website）



【図 2】1961（昭和 36）年 5 月に撮影された伊丹市域。住宅などの建造物が増加している。昆陽池の東側半分が企業用地として埋め立てられている（出典：国土交通省 Website）



【図 3】1973（昭和 48）年 5 月に撮影された伊丹市域。昆陽池は公園として造成中で、日本列島を模した部分が見える。昆陽池南側の大部分は埋め立てられ、浄水場や市役所の用地となった（出典：国土交通省 Website）



【図 4】1975（昭和 50）年 1 月に撮影された伊丹市域。昆陽池は公園として造成され、ほぼ現在の姿となった。植栽された小さな苗木が見える（出典：国土交通省 Website）



【図 5】1985（昭和 60）年 5 月撮影、伊丹市昆虫館は建設前（出典：国土交通省 Website）

園の‘今’



昆陽池公園。造成されてから40年以上
息していることがわかってきました。

昆陽池公園の現在の姿



2018 (平成 30) 年 10 月 9 日撮影の昆陽池公園。市街地における緑豊かな場所となっている



伊丹市内では、昆陽池公園は最も緑の多い緑地となっている

昆陽池公園の現在の姿

昆陽池公園の造成完了から46年が経過し、樹木が大きく生長しました。生長の早いクスノキのほか、ヤナギ類やクヌギ・アベマキなどの落葉樹では多くが胸高直径30cm以上の「大径木(だいけいぼく)」になっています。腐朽や風倒などのため枯死する木が出始め、また種子から育った若い木が生長していたりと、林の「階層構造」が成立し始めています。このため、昆虫類のほか鳥類やほ乳類も多数生息する林になりました。同公園に生息する動物類については、次項で説明します。

昆陽池公園の動物

昆虫類

伊丹市内では、2012（平成 24）年の時点で昆虫類 1,231 種が記録されています（当館調べ，未発表）。昆陽池公園では、市内で確認できた昆虫類の種数の約半数である 650 種以上が記録されています（後北ら，2012 など）。同公園では昆虫類の調査を継続しており、近年オオヤマトンボやウチワヤンマといった大型のトンボ類、里山林のチョウであるミズイロオナガシジミ、帰化種のキマダラカメムシなど、記録種が増加しています。

しかし、2014（平成 26）年には外国産と考えられるオオクワガタが、2015（平成 27）年には南西諸島産と思われるヒラタクワガタが同公園で相次いで採取されました（田中，2017）。ペット昆虫の野外逸出例と言えるこれらの事象は、今後の生物相調査の重要・必要性を示唆しているとともに、外来種増加に対する警鐘であるとも受け取ることができます。

（主要引用文献）

後北峰之・奥山清市・坂本昇・野本康太・角正美雪・長島聖大（2012）伊丹市昆虫館収蔵資料目録

昆陽池公園の昆虫．伊丹市昆虫館，兵庫．

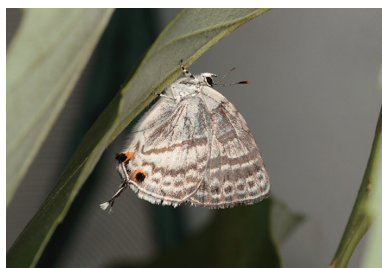
田中良尚（2017）伊丹市内で発見された外来クワガタムシ．伊丹市昆虫館研究報告（5）:31-33.



オオヤマトンボ



ウチワヤンマ



ミズイロオナガシジミ



キマダラカメムシ

クモ類

2016（平成 28）年に行った関西クモ研究会と当館の共同による野外調査により、67 種を確認することができました（未発表）。



アオオニグモ



ビジョオニグモ

ほ乳類

昆陽池公園におけるほ乳類についての文献記録は、最近のものしか見あたりません（尾崎ら，2017）。2017 年以降は同公園内に自動撮影カメラを設置して調査を行うことにより、複数種のほ乳類が活動・生息していることが明らかになってきました（当館調べ，未発表）。この調査で現在までに確認できたものとしては、在来種ではホンダタヌキ、ホンDIGツネの 2 種、外来種ではヌートリア、アライグマ、イタチ属の一種、ハクビシンの 4 種でした。ホンダタヌキとホンDIGツネはほぼ周年観察されるため、同公園内で生息・繁殖を行っていると考えられます。また、家畜種ではイエネコとイエイヌがしばしばカメラに記録されています。ネズミ類やコウモリ類等の中～小型ほ乳類については調査が進んでおらず、新たな記録が期待されます。

（引用文献）

尾崎雄二・尾崎由紀・井上保喜・前畑真実・田中良尚（2017）2016 年昆陽池公園におけるホンダタヌキの観察報告．伊丹市昆虫館研究報告（5）:35-38.



ホンダタヌキ



ホンDIGツネ



アライグマ(左)、イエネコ(右上)、イエイヌ(右下)

昆陽池公園の動物

鳥類

およそ 50 年前、昆陽池公園造成直前には 171 種の鳥類が記録されています（「伊丹の自然」編集委員会，1992）。現在同公園で確認されている鳥類は、野鳥観察グループ「チームK」の調査（未発表）により、2015～2018 年までの間で計 156 種にのぼることから、種数的には過去の記録に近いものとなっています。近年では、オオタカやフクロウの飛来、そしてアオバズクの人工巣への営巣など、森林に生息する種が観察されています。



オオタカ



アオバズク（尾崎由紀氏撮影）

は虫類・両生類

昆陽池公園造成以前には、は虫類 6 種（ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ニホンマムシ、アオダイショウ、シマヘビ）、両生類 6 種（トノサマガエル、ダルマガエル、ヌマガエル、アマガエル、ウシガエル、アカハライモリ）が記録されています（「伊丹の自然」編集委員会，1992）。このうち、現在までにトノサマガエル、ダルマガエル、アカハライモリが姿を消しているようです。

残念ながら、同公園の水域では現在、外来種であるミシシッピアカミミガメとウシガエルが大多数となっています。



ミシシッピアカミミガメ



ウシガエル

魚類

昆陽池公園造成直前には 10 種が記録されており、公園造成後の 1977（昭和 52）年頃には、オオクチバス（ブラックバス）やブルーギルが確認されはじめました（「伊丹の自然」編集委員会，1992）。魚類の種数的には現在でも大きくは変化していないと思われます。

（引用文献）

「伊丹の自然」編集委員会（1992）伊丹の自然第 1 巻、伊丹市立博物館、兵庫。

台風の猛威

2018（平成 30）年 9 月 4 日、非常に強い勢力のまま近畿地方に上陸した台風 21 号は、各地に大きな被害をもたらしました。昆陽池公園でも多数の樹木が倒れ、また幹の途中から折れたものも多数といった被害を受けました。倒木や落ち枝で公園内の園路は通行不可となったことから、当館はおよそ 2 週間の休館に追い込まれました。

しかし、このような壮齢林における攪乱（かくらん：環境を改変する程の大きな出来事）は、一般論として悪いことばかりではありません。樹木が倒れると、そこに日光が差し込むことによって新たな植物の生育の場となり、またその植物を宿主とする生物が新たにやってくる機会ともなります。倒木・樹木の幹折れは、枯木や朽木を食べて育つ昆虫類にとって食物が多く作られる好機であり、また鳥類や昆虫類を育む樹洞ができる契機となるのです。

（田中良尚）



伊丹市昆虫館入口前の園路（2018（平成 30）年 9 月 4 日撮影）

「さいきんの

生物多様性講演会を開催しました

毎年、様々なテーマで開催している生物多様性講演会ですが、今年度はアリの専門家である橋本佳明さん（兵庫県立人と自然の博物館、兵庫県立大学 准教授）を講師にお招きしました。「地球はアリが回している～ヒアリに人類は勝利できるのか？～」と題し、2019年1月7日にいたみホールで行われた講演会には、150名を超える大勢の方にお集まりいただきました。地球上で人類より繁栄しているかもしれない「アリ」の凄さと多様性、そして近年話題のヒアリとその対策についてなど本当に充実した内容で、素晴らしい講演会でした。

生物多様性講演会は、今後も毎年1月に開催予定です。取り上げてほしいテーマや、呼んでほしい講師の先生がおられましたら、ぜひ当館までお知らせください！（奥山清市）



講師の橋本さん

イモムシベンチがやってきた！



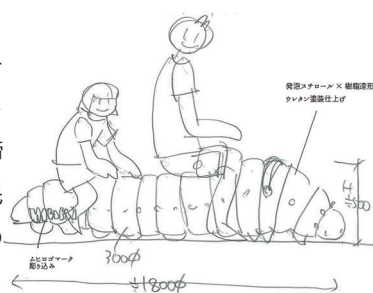
2階学習室で展示中

虫さされやかゆみ止めの薬「ムヒ」などで知られる株式会社池田模範堂様からお声がけがあり、社会貢献活動の一環として当館に展示品を寄贈していただけることになりました。子どもだけではなく大人も楽しんでもらえるようなものにしようと、両者で相談した結果、イモムシ型のベンチに決定しました。しかもアゲハ（ナミアゲハ）とアオスジアゲハの2匹、いや2脚制作することになりました。

デザインは当館の特別展や企画展の造作を何度も手がけているアイデアルデザイン製作所の北村彰さんにお願ひし、造形は長野久人さん、塗装は林伸光さんに担当して頂きました。その結果、リアルさを追求しながらも座りやすいという理想的なイモムシベ

ンチが完成しました。

11月2日にイモムシベンチの贈呈式を行いました。出席していただいた池田模範堂取締役の安田さんや、伊丹市市民自治部部長の柳田さんもそのクオリティの高さに驚いておられました。贈呈式は、当日に来館されていた皆様にも参加し



イメージイラスト（イラスト：北村 彰）

ていただき、最後に皆さんと一緒に記念撮影をしました。

2019年3月現在、この2匹のイモムシベンチは2階の学習室で活躍中です。皆さんもご来館の際には、ぜひこの巨大イモムシたちにまたがって記念撮影を楽しんでいただければうれしいです。

（奥山清市）



イモムシベンチ贈呈式

飼育室から

新しいアリの飼育展示を試行開始

アリはとても魅力的な昆虫です。冬以外の季節であれば、地面をながめるとたいいてい場所でアリがみつかります。もう少しよくみると、大きさや色のちがいだけでも何種もいることや、行列を作ってエサを運ぶ姿などの行動にも気づくでしょう。アリは一日中ながめていても飽きることはありません。

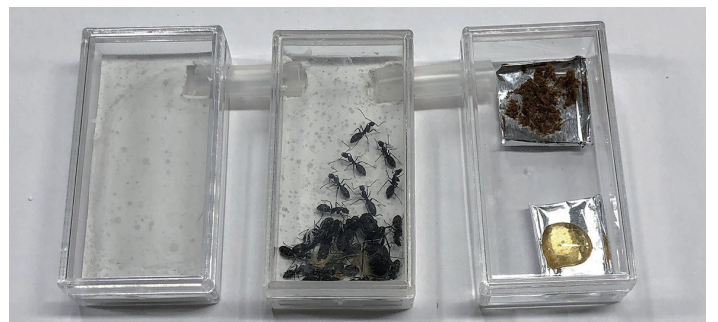
当館では以前から生態展示室でクロヤマアリの飼育展示をおこなってきました。最近になって、新しい形での飼育展示を2階学

習室で試行的に始めてみました。こちらではクロオオアリとオオズアリの2種を、机の上に置いたガラスふたの標本箱の中で飼育しています。飼育ケースとして、湿らせた石膏を敷いた小さなプラスチックケースに穴をあけ、それらをシリコンもしくは塩化ビニール製のチューブ（外径8mm、内径6mm）でつないだものを用いています。エサの補充は開館時間中に行っていますので、運がよければお世話をしているところがみられるかもしれません。

アリは女王アリさえ入手できれば（これが少し難しい）、飼育はそんなに難しくありません。みなさんも暖かくなったらアリの飼育と観察を始めてみてはいかがでしょうか？（長島聖大）



新しいアリの飼育展示のようす

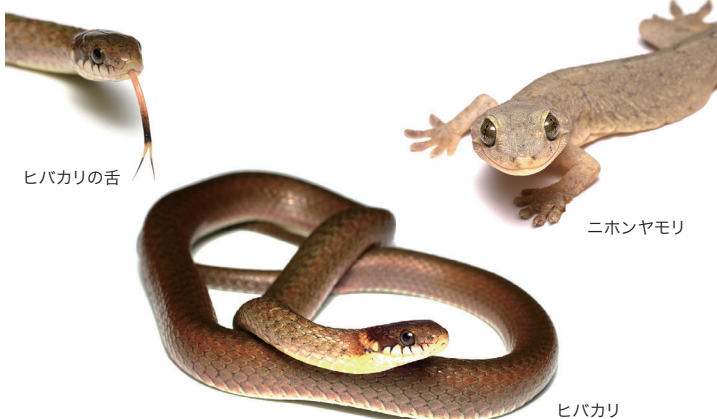


プラスチックケースをつないで作ったクロオオアリの飼育ケース
右の部屋にはアルミホイルで作ったお皿にのせたエサを入れている

昆虫以外の生きものの展示にも人気！

当館では最近、昆虫以外の生きものの展示が充実しています。1階の生態展示室ではヒバカリとニホンヤモリを展示しています。小型の魚やオタマジャクシなどを捕食するヒバカリは、丸まってじっとしていることが多いのですが、エサの金魚を捕らえる際には動きます。動きながら、口から舌を出す顔がチャームポイントです。

2階の学習室では、魚類や両生類、は虫類などの生体を展示しています。小さなお子さまに大人気です。身近に生息している様々な生きもののことを知ってもらえれば幸いです。（前畑真実）



学習室の生体展示コーナー

伊丹の魚類

講演会

「昆虫写真家海野和男の生きものの写真のススメ」

今年も当館と生きものの写真リトルリーグの
コラボレーションによる、昆虫写真家の海野
和男さんの講演会を実施します。昆虫だけ
ではなく様々な「生きもの」を撮影する楽し
さと、すぐに使えるワザについて美しい写真
と映像をふんだんに使ってお話ししていただ
きます。生きものの写真に興味のある大人の方
の参加も歓迎します。(奥山清市)



海野和男さん



昨年の講演会のようす

日時: 2019年4月14日(日) 13:30~15:00
場所: 伊丹市昆虫館 映像ホール
申込方法: 参加無料(要入館料)・予約不要・先着70名
当日9:30から受付にて整理券配布

Web サイトとメールアドレスが新しくなります

当館のWebサイトは2019年3月に新しいデザインになる予
定です。より見やすくなりますのでご期待くださいませ。

Webサイトのアドレスはこれまでと変わりませんが、メールアド
レスが変更されます。(長島聖大)

Web サイトアドレス : <https://www.itakon.com/>

E-mail アドレス : itakon@itakon.com

ミュージアムショップに昆虫食の新商品が登場!

この2月から昆虫食の新商品とし
て、シアワームの販売を始めました。
シアワームとはアフリカのブルキナ
ファソ産で、シアパーターノキを食べ
るヤママユガ科の蛾の幼虫を揚げた
ものです。味付けしており、そのま
ま食べることができます。



シアワーム(うす味)

シアワームは"昆虫食の entomo" が日本へ初めて輸入した商
品で、店頭販売は当ショップが初めてです。うす味とチリ味の2
種類があり、輸入元によると化
学調味料が使われていないので
安全性も高いところがおすすめ
だそう。お試しにぴったりの5g
(2~3匹入)で1パック500円
です。これまで塚原信州珍味の
各種ビン詰めや、こだわりの蜂
の子スナック"HEBO"を販売し
て好評を得てきましたが、もちろ
んそれらも絶賛販売中。どうぞ
お試しください。(坂本昇)



いなご、蜂の子、カイコのさなぎのビン詰め



こだわりの蜂の子スナック"HEBO"

【もよおしあんない】

4月

14(日) 海野和男氏講演会
「生きものの写真のススメ」

29(祝) ちょうちょのばたばたをつくろう

5月

上旬 プチ展示「なめくじ」講演会(予定)
5(祝) こどもの日、昆虫バッジプレゼント
来館先着100名(小学生以下のみ)
6(祝) ステップアップ野鳥講習会 要予約
18(土) アゲハの飼育講習会 要予約

6月

9(日) ちょうのはねの鱗粉転写
16(日) カイコのマユから糸くり体験
22(土) うらがわ探検

企画展

1/16 ~ 4/8 伊丹の自然
4/10 ~ 7/15 チョウのくらし

プチ展示

4/27 ~ 6/3 なめくじ
6/5 ~ 9/2 カイコ

行事の申込方法

かわいい内容は...

申し込むには...

・伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
*広報伊丹へは実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話での問い合わせには掲載以降にご案内します。
*広報伊丹は伊丹市ウェブサイトでもご覧になれます。
・伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
*講習会・観察会実施日の約1ヶ月~2週間前までに
お問い合わせください。

・FAX、Eメール(PDF添付を含むPCメールとのやりとり
ができないメールは不可)、および往復はがきで受け付けま
す。①行事の名前、②お申し込みの方全員(同伴含む)の
氏名(ふりがな)、③年齢(学年)、④住所、電話番号を記入し、
受付期間内にお送り下さい。
・小学生以下は保護者同伴での申し込みをお願いします。
・申込多数の場合は抽選になります。
・FAXの宛先番号 072-785-2306
・E-mail アドレス itakon@itakon.com
・往復はがきの宛先住所
〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 伊丹市昆虫館

編集スタッフより

今年度もカメムシの研究をがんばります。(ながしま)